

和歌山県全域

「紀の国わかやま文化祭2021」 学生による文化の魅力発信



【地域の基礎データ】

人口：913,523人（令和3年10月1日現在）

高齢化率：32.8%（令和3年1月1日現在）

産業：農林業、漁業、製造業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1回生：5名、2回生：1名、3回生：1名）

活動期間：令和2年6月～令和4年1月

担当教員：加藤久美

1. 活動実施の経緯

和歌山県では、第36回国民文化祭・わかやま2021と第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会（「紀の国わかやま文化祭2021」）が令和3年10月30日から11月21日までの23日開催された。全国的な規模による発表、競演、そして障害のある人もない人も共に参加し、交流の輪を広げる国内最大の文化の祭典として県では初めての開催となった。県内外から多くの参加があり見込まれたことから、全国に和歌山県の文化を発信し、県民の文化力を向上させる機会となった。本事業は、学生が文化の魅力を発信することにより、本文化祭の認知度の向上と開催機運の醸成を図ることを目的としている。

2. 活動の内容

年度はじめの緊急事態宣言や課外活動自粛により規制期間もあったものの、6つの活動を事前取材、2つのボランティア参加、また和歌山城ホールで開催された開会式にも参加した。これらの活動を文化祭HPや公式SNSを通じて発信することができた。

- 1) 事前取材 6(白浜Tシャツアート展、太地町「海を越える紀州」など)
- 2) ボランティア参加 2(加太カダハク、和歌山市太鼓の祭典)
- 3) 個人参加 (吹奏楽の祭典、など)

3. 活動を通じて

紀の国わかやま文化祭を通して、音楽や美術、演劇、歴史など様々なジャンルの和歌山の文化を知ったり、SNSでの発信を通して多くの人に和歌山の魅力を発信したりすることができた。このLIPは今年度で終了するので、ここで得た経験を普段の学生生活や、他の課外活動で活かしていきたい。

4. 成果物（ポスター）

紀の国わかやま文化祭LIP

3回生（1人） 2回生（1人） 1回生（5人）

山青し 海青し 文化は輝く

紀の国わかやま文化祭2021

第36回国民文化祭・わかやま2021 第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会
令和3年10月30日（土）～11月21日（日）

紀の国わかやま文化祭とは

- ・和歌山県で開催される文化芸術活動の発表、競演、交流等を行う国内最大の文化の祭典。
- ・キャッチフレーズは「山青し 海青し 文化は輝く」

活動目的

- ・文化祭のさらなる周知、参加意欲を高めるため、学生自身が事前取材をすることにより、魅力を発信していく。

活動内容

- ・事前取材（白浜町.太地町.湯浅町.和歌山市.田辺市）

海を越える紀州 太地町（10/23）

- ・紀州の移民や太地町について教えてもらった。



醤油のまち 湯浅町（10/10）

- ・醤油作り体験
- ・湯浅の歴史について教えてもらった。



開会式（10/30）

- ・有名人だけでなく、学生や障がい者の発表もあり、県民全員が主役である文化祭を体現していた。



期間中は和歌山市でボランティア活動にも参加しました！

・太鼓の祭典 ・カダハク

感想・まとめ

- ・事前取材や体験を通し、今まで知らなかった音楽や美術、演劇、歴史などの和歌山の文化を肌で感じた。また、文化の視点から和歌山の魅力を再発見することができた。さらにSNSでの投稿を通して多くの人に和歌山の魅力を発信し、伝えることができた。本当に貴重な機会で、これを機にもっと和歌山について知りたいと思った。このLIPは今年度で終わってしまうため、もう少し文化体験ができればさらに良かったが、この経験を普段の生活に活かしていきたい。